

第3回生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会 議事要旨

日時：平成23年7月21日（木）15:00～17:00

場所：福岡市役所15階 1505会議室

出席委員：

浅野委員	福岡大学法学部 ※委員長
荒井委員	九州歯科大学
小野委員	日本野鳥の会福岡
川口委員	九州大学大学院農学研究院自然生物科学部門
今田委員	福岡大学大学院工学部工学研究科 ※委員長代理
佐々木委員	財団法人福岡アジア都市研究所
志賀委員	グリーンシティ福岡
薛委員	九州大学大学院農学研究院環境農学部門
平松委員	九州大学大学院農学研究院環境農学部門
矢部委員	九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部門
横山委員	九州産業大学商学部観光産業学科

※敬称略

議事：

1. 生物多様性ふくおか戦略（仮称）について（理念・目標・方向性の検討）
2. 事業者アンケートの結果について
3. その他

配布資料：

資料1-1	生物多様性ふくおか戦略（仮称）について
資料1-2	生物多様性ふくおか戦略（仮称）の方向性について
資料1-3	福岡市の生物多様性の現状と課題
資料1-4	第2回検討委員会の委員意見対応一覧
資料2	生物多様性に関する事業者アンケート集計結果
参考資料1	生物多様性ふくおか戦略（仮称）検討委員会設置要綱
参考資料2	生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会 委員名簿
参考資料3	ガンカモ一斉調査結果（小野委員提供）
参考資料4	戦略策定にあたっての考え方（第1回の検討委員会資料）
参考資料5	他都市における生物多様性地域戦略の理念・目標・基本方針等設定事例
参考資料6	第2回生物多様性ふくおか戦略（仮称）策定検討委員会議事録（委員限り）

1. 生物多様性ふくおか戦略（仮称）について（理念・目標・方向性の検討）

※事務局より、生物多様性ふくおか戦略（仮称）について（資料 1-1）、生物多様性ふくおか戦略（仮称）の方向性について（資料 1-2）に基づき説明があった。

（浅野委員長）

- ・前回示された資料とは思考を変え、最初の目標のところはトップダウンで考え、それが裏付けられるかを、前回の SWOT 分析を少し改良して検証しているようであるが、このような思考過程などについて疑問点などあれば、ご指摘いただきたい。

（志賀委員）

- ・資料 1-2 の「福岡市の生物多様性の保全及び持続可能な利用のポテンシャル」で示している 4×4 のマトリクスの集計方法について、もう一度ご説明いただきたい。

（浅野委員長）

- ・例えば「差分」で評価したという点など、先ほどの説明が不十分だったので、もう少し説明すること。

（事務局）

- ・資料 1-2 の 4 頁「(1)生物多様性の保全」を示しているが、1～3 頁で強み・弱みの内部環境、機会・脅威の外部環境として整理した事象の数をカウントし、どちらが多いかということを図に示している。

（浅野委員長）

- ・図では定量的に示しているように見えるが、その基になる各事象の抽出は極めて主観的に行われており、その抽出の仕方によっては、評価が変わる可能性があるとの認識で良いかと思う。

（薛委員）

- ・このマトリクスの図は、最終的な印刷物に載せるのか。

（事務局）

- ・その点は、委員会の中でもご議論いただきたい部分でもあるが、市民に福岡市の生物多様性がどういう状況にあるのかをわかり易く説明したいという思いがあり、この図に限らずこういった説明材料を作成出来ないものかと考えている。

（浅野委員長）

- ・環境省が、生物多様性の状況について、矢印で評価を示しているが、その福岡市版を作りたいということかと思う。

（平松委員）

- ・このマトリクスの内側にマークされるか外側マークされるかについては、どのような判断基準で評価しているのか。

（事務局）

- ・先ほど浅野委員長からもご指摘があったように、定量的な評価を行っているようには見えるが、分析結果の表を見ながら、おおよその位置をマークしている。

（薛委員）

- ・資料に記載されているように、倍以上の差がある場合に外側にマーキングしているのではないか。

（浅野委員長）

・いずれにしろ、かなり直感勝負で評価しているものだと思う。

(平松委員)

・了解した。そういう評価になるだろうとは思う。

(薛委員)

・資料 1-2 の外部環境の“脅威”の欄に「生物多様性を福岡市の持続可能な“成長”につなげる上での追い風」と、“機会”と同様の内容が書かれている。

(事務局)

・記載の誤りで、正しくは「生物多様性を福岡市の持続可能な“成長”につなげる上での向かい風」になるため、訂正したい。

(矢部委員)

・資料 1-2 の 4 頁の“強み (14)”“弱み (13)”の数字については、どこをカウントしているのか。

(事務局)

・資料 1-2 の 1~2 頁が“強み”で、3~4 頁が“弱み”を記載した表になり、その中に書かれた項目数をそれぞれカウントしたものである。

(浅野委員長)

・本日、特に、地域特性区分については、この区分で問題があるのかないのか、各委員それぞれの専門家の立場からご意見を伺いたい。

・また、地域特性区分とともに資料 1-1 に示されている「理念」と「目標」の文章表現、さらに可能であれば地域別目標についても、ご意見を伺いたい。

・但し、地域別目標については、まだかなり精査がされていない文章になっているため、手を加える必要があると考えるが、概ねこの程度の分量で表現したいということだと認識頂ければと考える。

・まず思考の順序として、地域特性区分からご意見を伺っていきたい。

・地域特性区分については、資料 1-2 の 15 頁にあるように、生物多様性国家戦略の特性区分を基本にしつつ、福岡市の環境配慮指針におけるゾーンも考慮して整理されているが、これについて専門的見地からご意見を頂きたい。

(荒井委員)

・ほ乳類で当てはめた場合でも、割と区分できるため、概ねこの区分で良いのではないかと考える。

(小野委員)

・「内陸部 (都市的地域)」の中においても河川のポテンシャルが非常に高いなど、重なる部分については悩ましい面もあるが、基本的な区分としては、今回示された地域特性の区分も成り立つかなとは考える。

(川口委員)

・悩ましい部分があり、もう少し考えさせてほしい。

(薛委員)

・面的なものとの線的なものが混在しているところが難しいところだが、許容範囲内であるとは考える。

・但し、取るべき行動が異なるために区分するものであって、その中で指摘する内容が同じになってしまうのであれば、区分する必要はない。そのため今の段階で判断するのは難しい面もある。

(平松委員)

- ・専門としている地域水環境を考えた場合、生態系や水質などの面からも。河川、河川からの引き込み、農業用水路、排水路など、常に一体的に考えており、河川部が独立していることには違和感があるものの、面として考える必要がある部分と、線として考える必要がある場合もあるため、河川を区分しておくのも一つの方法と考える。

(矢部委員)

- ・目的に対してこうした区分が効率的であるかが重要であり、それが効果的であれば、多少、面や線が混在していても問題ないと考える。

(横山委員)

- ・この区分で良いと考える。こうした区分によって、山地もあり都市もある福岡市の特徴が出てくると考える。
- ・但し、「内陸部（都市的地域）」と「沿岸部（都市的地域）」の線引きをどこで行うかは難しいところではないか。例えば埋立地は沿岸として、いつ頃からの埋立地を沿岸とするかなど。

(浅野委員長)

- ・明治期以降の埋め立てになるのではないかと考える。

(佐々木委員)

- ・他都市の戦略の整理の仕方を見ると、神戸市のように「山」「川・海」「田園」「街」といった区分の方が市民にもわかりやすいと感じた。
- ・その際に、神戸市の例で言えば、山なら「六甲山」のようなシンボリックなものが示されており、地域区分を示す際にも、そうした市民の誰もが知っているようなシンボリックな場所も合せて示した方が良いと考える。

(志賀委員)

- ・区分や目標については、良いと考えるが、戦略の中でこうした区分を図示するのかを確認したい。例えば、明確な区分が示されるのか、楯円などで大まかなゾーンが示されるのか、文言だけで示されるのか。

(今田委員)

- ・資料 1-1 の 1 頁に示された「戦略策定のねらい」というのが、良く理解出来ない。
- ・例えば、福岡市における生物多様性の意義として、「生物多様性が福岡市の魅力を支える重要な要素となっている」と書かれているが、「魅力」をどう捉えるかにもよるが、果たして本当に重要な要素になっているか。
- ・また、戦略策定のねらいでは、「福岡市の活力の維持、向上するための長期的な成長戦略とする」とあるが、「活力」を支えているのは、人モノ金が集まるような地理的な要因が大きいのではないか。
- ・生物多様性が福岡市の発展をどのように支えているか真剣に考えないと、目的に沿ったことを実現できないのではないかと考える。
- ・そのため、課題の整理において、福岡市の生物多様性が、福岡市の「魅力」や「活力」にどのように関わっているのかを分析しないと、目的に到達しないのではないかと考える。
- ・例えばシンガポールとバンコクを比較すると、シンガポールの街は緑豊かなガーデンシティである一方、バンコクの街は汚い。
- ・しかし、バンコクの街は非常に活気があるなど、都市の魅力というのは必ずしも生物多様性には限らな

いのではないか。

- ・また、「生物多様性」が「自然」とほぼイコールで使用されているように感じるが、自然保護については既に多くのことが進められている。
- ・生物多様性といった場合、教科書的に言えば三つのレベルの多様性があるが、果たして福岡市で3つのレベルの多様性が必要なのか。福岡市の場合、緑があるということが、暮らしやすい、住みやすいということにつながっているのではないか。
- ・さらに、戦略策定のねらいに「福岡市の個性・魅力は、その多くが生物多様性から受ける生態系サービスによって支えられてきたもの」とあるが、確かに生物多様性もその一部は支えているかもしれないが、工業を北九州に、水や食料を隣県に任せた上に成り立っている。

(浅野委員長)

- ・こういった形で見直しを行えば良いか提案していただけないか。

(今田委員)

- ・福岡市の「魅力」や「活力」がどういうものかを議論し、その上で、それらが生物多様性とどのように関わっているかを分析しないと目的には到達しないのではないか。

(浅野委員長)

- ・福岡市の「魅力」や「活力」が何かというのは、既に様々な行政計画の中で議論をされてきたものであり、分析が必要であるならば、そうした既往の計画を使って整理すれば良い。
- ・この委員会は、生物多様性戦略をつくるという目的があって検討しているものであり、他の計画で議論される内容をここで議論する必要はない。
- ・また、書きぶりに問題があるのかもしれないが、この地域戦略は、生物多様性＝「自然を守る」では決してないと認識している。
- ・福岡市の内部でも、建設系の部局は、生物多様性というものに対して警戒感を持っているし、市長も開発の妨げになると考えている可能性があり、それに対して、「そうではない」ということをきちんと説明することで、庁内あるいは市民に理解を求めていく必要がある。
- ・例えば、大阪では生駒山まで行かなければ自然の緑がないが、福岡市では街の中に、人工的ではない自然の緑がある。そうした街がもともと持っている特性というものがある。
- ・また、福岡市の食文化を始めとした歴史・文化などが、生物多様性によって、物質的にも精神的にも支えられている。
- ・さらに、福岡は拠点都市であり、世界やアジアの都市から様々なものが流れてくる、あるいは、福岡を取り巻く海やさらに遠くから資源が持ち込まれるなど、外部の多様性が福岡を支えている。
- ・この地域戦略では、こうした2つの側面を、広く市民に発信していこうとしており、なんら疑問を感じていない。
- ・福岡市の魅力については、先ほどお話したように、これまで多くの議論をしてきたものであり、ある程度の共通理解が市民の中にもあると考える。すなわち魅力というのは総合的なもので、整然としていない部分の魅力という、屋台に代表されるようなアジア的文化が福岡にはある。

(小野委員)

- ・1934年に「日本野鳥の会」が発足しているが、その13年前の1921年には「福岡鳥の会」というのが発

足している。これは、恵まれた環境を享受していた福岡の人々が、そうした環境を「なんとかしなければ」という気持ちから生まれたもので、そうした部分は福岡の財産であると考える。

- ・また、野鳥の会の中にも転勤の途中で福岡に永住した人もいるが、福岡市が多くの生態系サービスを受している表れだろうと考える。

(浅野委員長)

- ・地域特性区分に関しては、皆様の意見からも概ね良いのではないかと考えるが、一つ気になるのが小呂島である。特に「海洋域」という区分を考えると、小呂島も含めた海域を含めた場合に、何が書けるのかという課題がある。
- ・玄海島や能古島周辺までを考えると対応も検討しやすいが、市域全域と言ってしまうと小呂島まで入ってしまうが、どのように考えているか。

(事務局)

- ・地域区分については、陸域のみを考えていた。
- ・海洋については、博多湾が福岡市、その外側の筑前海が福岡県、その外側が国というように管轄が分かれており、地域戦略の中で取り扱う海洋域については、福岡市の管轄である博多湾までと考えている。
- ・小呂島については、ハチジョウススキなどの群落もあるため、陸域の方に含めて考えたい。

(浅野委員長)

- ・そうであれば小呂島周辺海域を除くということか。

(平松委員?)

- ・沿岸部とはどの程度の範囲を指すのか。

(事務局)

- ・3海里程度と考える。

(薛委員)

- ・沿岸部とは、砂浜や磯など狭い範囲かと思われる。

(浅野委員長)

- ・海洋域と書くと悩ましくなる。
- ・しかし、鳥や魚などは行き来しているわけで、これが戦略だということも考慮して再考してほしい。

(事務局)

- ・沿岸部と海洋域については再考したい。

(浅野委員長)

- ・ただ、福岡市漁協は、かなりの範囲まで出漁しており、対象区域として入れても良いのではないか。

(事務局)

- ・対象地域については、福岡市の権限の及ぶ範囲と考える。
- ・ただ、確かに沖合漁業として漁協が操業しているのは、宗像大社の沖ノ島を越えている。

(川口委員)

- ・沿岸域に対して海洋域という表現には抵抗がある。外海という言い方の方が良い。

(浅野委員長)

- ・海洋域を外してしまうという考え方もある。いずれにせよ事務局で整理をすること。

(薛委員)

- ・志賀委員からも質問があったが、地域特性区分の使い方について、重複なしでエリアを分けるのか、案件ごとにどの区分に該当するかを表で確認するだけなのか、楢田などで大まかなゾーンが示されるのか。

(事務局)

- ・自然保護計画などであれば具体的な区域分けが必要になると考えるが、100年後、50年後を見通した戦略という性格を考えると、楢田などで大まかなゾーンを区分し、方向性を示すイメージである。

(薛委員)

- ・大まかにしろ、図として区分してしまうと、その中にも様々な地域特性がモザイク状に含まれるため、むしろ図に示さずに、場所ごとに確認していくような使い方の方が良いのではないかと。

(浅野委員)

- ・第1次環境基本計画の時に、地域の環境区分を巡って関係省と議論をしたことがあり、地図に色を塗るわけではないとして話をまとめた。それと同じように考えることもできる。

(小野委員)

- ・ある地域に住んでいる方が、この区分表を見て、「わが地域はこの区分だな」と判断するようなものでも良いのではないかと考える。

(浅野委員長)

- ・無理に地図として出す必要はなく、要するに見せ方の問題である。
- ・宿題はあるが、ここは概ね了承ということで、次に、理念と全体目標についてご意見を頂きたい。
- ・第二回の委員会で、細かいSWOT分析から導き出したものに対して、委員の皆さんから多くの問題点を指摘されたのを受け、今回はトップダウンで理念・目標を示して、それを裏付ける作業として分析を行うというストーリーを組み立ててきたということである。
- ・今田委員からのご意見もふまえ、ご発言をいただきたい。

(薛委員)

- ・全体目標、あるいは方向性で使われている「成長」という言葉は必須なのかどうか疑問がある。
- ・「成長」が何を意味しているのかを教えていただきたい。

(事務局)

- ・例えば、建物が次々と建てられて都市が進展していくというのも1つの「成長」であろうかと思うが、ここで使用している「成長」という言葉については、「住みやすい」「食べ物が美味しい」といった評価軸で捉えるものと考えている。

(横山委員)

- ・「持続可能な」であれば、発展や展開という言葉が続くが、「成長」というと右肩上がりなイメージがある。時勢からすれば「成長」ではなく、「持続可能な」という言葉の方が良いのではないかと。
- ・理念にある、「市民の豊かな生活と、まちの持続的発展」の中で、「まちの」という部分に違和感があるし、また意味も良くわからない。「まち」だけの発展でよいのか、「まち」をどのように捉えるかという問題もある。

(浅野委員長)

- ・「生活」と「まち」を併記して、持続的発展という言葉に馴染むかという指摘である。

・昨日、北九州のあるシンポジウムで、一般の方から「100年後に北九州の人口は20万人になるという予測があるが、市ではどう考えているのか」という質問が出て、市の方も回答に苦慮していた。

・ちなみに100年後の福岡の人口は推計されているのか。

(佐々木委員)

・100年後は推計されていないが、50年後くらいまでの推計はある。2025年くらいをピークに減少に転じる予想となっていた筈である。

・理念の中に、地理的特性と歴史性を踏まえた記述が入った方が良いのではないかと。

(浅野委員長)

・確かにこの理念だと、福岡市の部分を別の都市に置き換えても通用してしまう。

・福岡市の環境元年宣言の際には、「玄海」や「脊振」という言葉を入れている。

(薛委員)

・一般的に「つくり、まもり、活用する」という並びであれば、消費する使う方の「活かし」と想像できるが、この理念では先に「活かし」と来て、その後ろに「守り、創る」とある。この最初に生物多様性を活かすとあるのは、生物多様性の恩恵を踏まえという意味合いと考えてよいのか。

(事務局)

・そういう意味で捉えていただいて良い。

(薛委員)

・では、生物多様性を「創る」という部分は、果たして人間業で出来るのか。

(事務局)

・「創る」という言葉については、開発によって失われた自然を再生するようなものをイメージしており、それを「再生」と書くのか、「創る」と書くかという選択で、現在は「創る」を採用している。

(荒井委員)

・私も、生物多様性の「創出」という言葉には違和感がある。「再生」くらいまでは何とか良いかと思うが。私自身も悩むところである。

・また、行政の行動計画の具体的な取り組みに示されている50年後と100年後の目標について、今書かれている内容は、50年後のものは10年後、100年後のものは50年後くらいには達成されていないといけないのではないかと。そして、100年後には生物多様性が当たり前の世界になってほしいと思う。

(浅野委員長)

・「成長」という表現が良いのか、「生活とまち」とを併記して持続的発展で良いのか、地理的特性をもっと感じさせる表現できないのか、「成長し続ける」という目標で良いのかといった意見が出たが、他にはないか。

(今田委員)

・理念の「活かし、守り、創る」と、目標の「保全・再生・創出」がリンクしていないのが気になる。

(志賀委員)

・理念の「活かし、守り、創る」の「活かし」については、薛委員が言われたように恩恵を受けるという意味合いがあるため「享受」と言った方が合っているのではないかと。

・また、「創る」についても「育む」くらいの表現の方が、個人的にはしっくりくる。

(浅野委員長)

- ・「発展」や「成長し続ける」という部分を巧く置き換えられる言葉があると良い。
- ・ここでは直ぐに出てこないようなので事務局の宿題とする。類語辞典などを調べればいろいろと出てくると思うので活用すると良い。
- ・「理念」と「目標」を分けていることについては、どのような意図があるのか。

(事務局)

- ・事務局でも悩んでいる部分である。
- ・例えば、10年程度を目標としている個別計画であれば目標を明確に示しやすいが、100年後を目指した戦略となると明確な目標を示すのはつらい面があり、果たして理念と目標を書き分けられるのか、あるいは書き分ける必要があるのか悩ましい部分である。

(浅野委員長)

- ・例えば、「美しい脊振と 遥かにつながる玄海灘・・・ 過去千年にわたってそこに人が生きてきた・・・ そうした人々の営みは、生物多様性の恩恵に支えられており これからの100年も変わらず生物の多様性を継承し 人々が生きていく」というような理想を述べるのが「理念」であり、「目標」には、行政的な施策や人々の取り組みで実現すべき内容を記載する。そういう違いが必要である。
- ・そのため、佐々木委員が言われるように地理的特性などを表現したものにした方が良い。

(佐々木委員)

- ・「理念」は覚えやすい方が良い。

(今田委員)

- ・博多というのは最も古い街とは言えないか。もしそうであれば、そういった特徴も取り込んで、例えば「最も古くて 最も新しいまち」というように、時間軸についても表現できると良いのではないか。

(浅野委員長)

- ・「理念」については、佐々木委員に助言を頂きながら事務局で検討すること。
- ・「目標」については、「理念」に書いた内容を、取り組みの視点から表現すること。

(薛委員)

- ・目標は、50年か100年か、どちらにするのか。

(浅野委員長)

- ・国の目標はどうか。

(事務局)

- ・国家戦略では、100年後を目指しつつ、2050年を中長期目標としている。

(志賀委員)

- ・福岡市の場合、消費地としての役割が大きいことから、今回の地域戦略では、ハビタットだけでなく、生態系サービスにも果敢に切り込む内容となっているが、その際、人口とのバランスが重要になるため、人口予測と対応しながら考えられた戦略であれば説得力が出るのではないか。但し、文字面としては100年の方が良いとも感じる。

(薛委員)

- ・生物や生態系が将来どうなってほしいということを書くのか、人や市民がどうなってほしいかを書くか

によっても変わってくる。

(矢部委員)

- ・地域別目標については、目標ではなく現状が書かれている部分がある。

(薛委員)

- ・恐らくこの文章は、50年後あるいは100年後に「こうなっている」という状態を書いているものではないかと推測する。

(事務局)

- ・ご指摘の通りである。

(矢部委員)

- ・例えば、「沿岸部（都市的地域）」を見ると、「港湾施設をはじめ、レクリエーション施設や文化施設など、多様な施設が高度に集積した沿岸地域」あるいは「大半が埋め立てによる造成地である」と書かれているが、これは「目標」ではなく「定義」になっていて、最後の一文「臨海都市としての立地を活かし、都市と自然が調和した空間が形成されている」が、ようやく「目標」になっている。
- ・それであれば「定義」と「目標」を分けて書いた方が良いのではないか。

(横山委員)

- ・現状はこうで、100年後はこうなるというように、書き分けないと分かりづらいのではないか。

(事務局)

- ・ご指摘を踏まえて再考したい。

(浅野委員長)

- ・現状を書くのか将来像を書くのか、それとも併記するのが、定まっていないため整理が必要である。
- ・それと、都市計画を定めているわけではないので、生物多様性の観点から言えることを示せば良いが、少し整理できていないように思う。
- ・例えば、「内陸部（都市的地域）」であれば、「健全な生態系ネットワークやコリドーが形成されている」ということや、「屋敷林が保全されている」、さらには「大規模な敷地をもつ宅地では緑が植栽され、鳥が集まる」などと書けるのではないか。

(佐々木委員)

- ・100年後、50年後だからこそ夢を語りたい。

(小野委員)

- ・数年前に環境省で作成した都市の将来像には、街の中に緑が溢れていて、空にはタカが舞っているものだったが、そのようなイメージで、目標も書き込んで良いのではないか。

(川口委員)

- ・将来像が、あまりに現在に近いのではないか。

(浅野委員長)

- ・原案には夢がないということだ。

(事務局)

- ・もう少し夢をもって検討したい。

(浅野委員長)

- ・「理念」については、先ほど話したように理念らしい書きぶりに変更するというので、委員の皆さんの同意を得たので、佐々木委員の助言を受けながら事務局で検討すること。
- ・「目標」については、新たに定める「理念」を踏まえて、今回の資料で「理念」「目標」としているものを精査し、再考すること。
- ・人々の行動面を書くのか、生物多様性の状態を書くのか。地域別目標では生物多様性の状態を書こうとしていることを踏まえると、全体目標も、あまり「市民が・・・する」などという表現を出さず、生物多様性の状態を書くようにした方が良いのではないか。

(横山委員)

- ・目標は「こうなる」という状態を書いて、行動については行動計画で書けば良いのではないか。

(浅野委員長)

- ・全体目標、地域別目標ともに、状態を示すようにする。

(浅野委員長)

- ・次に、基本的方向について、ご意見を伺いたい。
- ・基本的方向では、どういったことをやるのかということを示そうとしている。
- ・先ほど、今田委員から指摘のあった、「福岡市の魅力」については、自明のことにように思っているが、言葉で示しておく必要があるのではないか。また、そこで生物多様性がどのように関わっているのかということは明記されている方が良い。その上で、それらを前提にして何をなすべきかを示す必要がある。
- ・「福岡市の魅力・個性を伸ばし、成長していくための方向性」というのは、福岡市のマスタープランとの関係から見て齟齬はないのか。

(事務局)

- ・ここで言う福岡市の「魅力・個性」については、あくまで生物多様性に裏打ちされたものに限定されるため、マスタープランで示している都市の方向性との整合は考えていない。

(浅野委員長)

- ・そうであれば、「福岡市の生物多様性の意義」に、「生物多様性の豊かさが福岡市の魅力を支える重要な要素となっている」と、唐突に表現されているが、「魅力」が何を指すのかが分からなければ、本位が伝わらないため、やはり、ここで言う「魅力」が何を指すのか明確にする必要があると考える。
- ・都市機能があること、自然が豊かであること、みんなが住みやすいと思っていること、これらと生物多様性の意義の繋がりが悪いと言われれば、その通りである。
- ・生物多様性の持つ生態系サービスの恩恵や、市民に与える安らぎや安心感などの精神的価値、さらには、福岡市の歴史性などをきちんと説明すれば、生物多様性の意義が明確になるのではないか。
- ・その上で、方向性を見出しにも、「生物多様性に裏打ちされた」などの形容詞をつけて説明した方が良いと考える。
- ・方向性について、議論を進めたい。資料1-2を見ていただき、言葉としての不自然さはないか。
- ・例えば「地域の魅力の共有と維持向上」で言えば、「共有」に含まれる2つの側面が書き分けられていない状態にあると考える。「魅力」に対する認識・理解の共有、「魅力」から得られるサービス・恩恵の共有。個人的には、認識・理解の共有であると捉えているが、仮に入会地など共有持分のような捉え方ではおかしいことになる。

(事務局)

- ・魅力の根源的にある生物多様性について認識する。

(浅野委員長)

- ・それを、土地の共有と同じように捉えてしまうことには問題があるのではないか。生物多様性をコモンのように捉えてしまうと消費型になってしまう。むしろ、生物多様性についての認識や感謝の気持ちが共有されるということであり、生物多様性そのものを共有することではない。

(薛委員)

- ・資料 1-1 の『行動計画・推進体制・進行管理 1. 基本的方向』の方向①～③の文章を読むと、今、浅野委員長がおっしゃったように、認識の共有について書かれているようである。

(浅野委員長)

- ・そうすると、タイトルの表現が良くないということかと思う。

(薛委員)

- ・「1 地域の魅力の共有と維持向上」にある「地域」とは、福岡市のことか。

(事務局)

- ・一義的には福岡市と考えているが、外からの恩恵を考慮して流域など周辺地域も含めて捉えている。

(浅野委員長)

- ・2つ目が「生物多様性の恵み・・・」とあるのに対して、1つ目は、いきなり「地域の魅力」となっており、生物多様性と関係ない魅力を想像してしまう人も多いのではないか。

(薛委員)

- ・1つ目のタイトルから「魅力」という言葉を削除しても、問題ないのではないかと考える。

(浅野委員長)

- ・2つ目の「生物多様性の恵み」はよい言葉であり、いつでも使えるものとする。1つ目も「地域の生物多様性の恵みに対する認識の共有」などといった方が良いのではないか。その上で、次の、恵みを活かす視点につながる方がわかり易いのではないか。

(今田委員)

- ・生態系サービスと生物多様性の恵みは同じ意味か。

(横山委員?)

- ・そうだと思うが、使い分けがされているのか分からない。

(浅野委員)

- ・「3 広域連携による生態系サービスの安定化」の「広域」については、例えば、シロウオやあぶつてかもなども福岡市外からのものが使われていることが多く、広域的な生物多様性の恵みに支えられていることを認識することも含むと考える。ここでは、一緒に何かをするということと、認識することの両方の意味があり、そこが上手く言い表せればと思う。

(佐々木委員)

- ・「1 地域の魅力の共有と維持向上」と方向①～③は、「市民」が主体であり、市民が理解し、市民が守るということを明示する部分であるとする。

(横山委員)

- ・方向①～③で、市民の理解、認識を促すということを示すのだと思う。

(浅野委員長)

- ・「4 地域固有の文化の再構築による誇りの醸成」については、想いだけが先行してしまっていて、言葉としてはわかり難くなっている印象がある。

(今田委員)

- ・「4 地域固有の文化の再構築による誇りの醸成」の冒頭に「生物多様性に育まれた」と入れると納まりが良くなるように感じる。

(浅野委員長)

- ・1～4 全てに「生物多様性」という言葉を用いた方が良いのではないか。「3 広域連携による生態系サービスの安定化」についても「生態系サービス」という言葉を唐突に使用するよりも、「生物多様性の恵み」とした方が良いと考える。

(事務局)

- ・意見を踏まえて修正を行いたい。

(浅野委員長)

- ・方向①～⑫については、あまり大きな異論はないのではないかと考える。

(横山委員)

- ・方向①で「魅力を支える多様な生態系の重要性」と、「生態系」ということばが唐突に出てくるのは違和感がある。

(浅野委員長)

- ・「多様な生態系の重要性」と言うよりも、「生物多様性の重要性」と言った方が良いので、修正する。
- ・他の部分でも「生態系」という表現が多く使われているが、どういう意図か。

(事務局)

- ・「生物多様性」というのが状態を表す言葉であると考え、それよりは生態系サービスなどの恵みをイメージできる「生態系」という言葉を使っている。

(浅野委員長)

- ・「遺伝子の多様性」「種の多様性」「生態系の多様性」と、特に状態を表しているというともなく、また、「生態系」だけでは、「遺伝子」や「種」の多様性が欠落してしまう。
- ・「生物多様性」という表現で統一しつつ、戦略の冒頭で、「生物多様性」に関する解説をきちんとして、定義づけすれば良い。

(事務局)

- ・意見を踏まえて修正を行いたい。

(浅野委員長)

- ・次に「2 .行政の行動計画」だが、これについては、このような内容のものを今後ここに記載していきたいという考え方を示しているものだと考える。

- ・また、「3.リーディングプロジェクト」については、具体的な取り組みとは別に挙げてみたいということか。

(事務局)

- ・そうである。行政としては、戦略が絵に描いた餅にならないようにするためにも、海と山それぞれで1つずつくらい、生物多様性保全に向けたアクションが出来ないかと考えている。

(浅野委員長)

- ・主旨は理解できるが、財政当局との折衝もあり、書き込むことが難しいのではないか。
- ・また、50年もしくは100年を目標とした戦略の中に、現在進行形の取り組みが入るのは問題があるのではないか。戦略の性格が曖昧になってしまうため、戦略本体に入れずに資料編で付ける方が良いのではないか。

(事務局)

- ・取り組みの方向性をの形を示せればと考え、リーディングプロジェクトというものが有効ではないかと考え、入れてみたところである。

(浅野委員長)

- ・既に取り組んでいるものであれば、囲み記事のような形で参考として入れるのが妥当ではないか。仮に、市長の決済もとって、今後50年続ける事業を書き込めるのであれば、戦略本体に入れても良いとは思う。

(薛委員)

- ・COP10で示された愛知ターゲットでは20の目標が示され、大きく5つにグループに分けられているが、そこでは、生物多様性に対する間接的な目標と直接的な目標とを分けて考えられている。
- ・ここで示されている方向①～⑫は、直接的な行動につながる方向性というよりも、「このように考えなさい」という間接的な方向性だけが示されているように思える。
- ・仮に、このような間接的な方向性に限って示すというのであれば、リーディングプロジェクトのような具体的な取り組みが出てくるのは齟齬があるように感じる。それであれば理念や考え方を示す戦略になるような気がする。

(浅野委員長)

- ・おそらく事務局としては、その程度の内容が一番抵抗なく書き込める内容だという認識があったのではないかと考える。

(薛委員)

- ・それであれば戦略本体に入れない方が良い。

(川口委員)

- ・私も戦略本体に入れない方が良いと考える。理念などを示している戦略と合っていない。

(浅野委員長)

- ・長期の戦略を立案すると言っていて、この部分だけ個別計画になってしまっているのは問題がある。

(荒井委員)

- ・ただ、むしろこういった「将来に向けてこういうことをやりたい」ということが示せないかと期待はしたのだが。

(佐々木委員)

- ・「生物多様性の重要性を理解し」という方向があるのであれば、それを受けて、「子どもの教育には全て環境教育を取り入れていく」といった取り組みが書けるのであれば、載せる意義はあると考える。

(浅野委員長)

・福岡市には生物多様性の学習に活用できる場所がほとんどなく、環境教育のメニューが打ち出せないのが現状である。

(佐々木委員)

・市民挙げて、教育に取り組んでいくんだという姿勢が示されるべきである。

・流山市の「オオタカがすむ森」は、キャッチフレーズとして上手いと思う。

(今田委員)

・リーディングプロジェクトは、方向①～⑫それぞれに示される具体的な取り組みの中で、ハイライトしたいものを示すだけではないのか。

(事務局)

・今後取組む取り組みの中から重要なものをハイライトするというのが難しいため、ここでは現在取り組みが進められているものを別枠で示している。

(横山委員)

・100年の森プロジェクトというのがあるが、例えば、スギの人工林になっている市有地を広葉樹林に変えていくプロジェクトなどであれば戦略に載せる意義がある。

(浅野委員長)

・本日、内容を固める予定だったが、委員の方がたら頂いた意見を踏まえて再考する必要があるため、ここまでの内容については、委員長一任ということで、見直しを進めて行くということで良いか。

(各委員)

・異議なし。

2. 事業者アンケートの結果について

※事務局より、生物多様性に関する事業者アンケート集計結果（資料2）に基づき説明があった。

(浅野委員長)

・概ね想定された結果が出ているのではないかと考える。

・これについて何かコメントやご意見があるか。

(今田委員)

・255社中90社の回答であるが、産業部類別の回収率を集計してほしい。

・また、票数は少ないが、業種別あるいは事業所の規模別に分析を行ってほしい。

(浅野委員長)

・今後、クロス集計などの際には、今の意見を踏まえて行ったほしい。

(矢部委員)

・問5以降の円グラフについては、否定的な意見、肯定的な意見、中間の意見など、ひと目で分かるような色使いに注意してほしい。

(佐々木委員)

・ユニバーサルデザインの面からも問題のある色表示である。

(志賀委員)

- ・問 10 の選択肢に「生物多様性に資する製品やサービスを提供している」とあるが、それがどのような製品やサービスなのかわかると有り難い。

(浅野委員長)

- ・今後、クロス集計などの際には、今の意見を踏まえて行ったほしい。

(浅野委員長)

- ・総じて言えるのは、生物多様性というキーワードがあまり理解されていない、もしくは、担当者は理解していてもトップの理解が得られず取り組みが進まないということである。
- ・生物多様性に対して、意欲のある企業はあるがやるべきことがわからない状況にあるため、いろいろなアイデアを提供していくことが重要になってくる。

3. その他

(事務局)

- ・議事録については、委員会の運営要領に基づき公表を行う予定である。
- ・また、参考資料 6 としてつけている前回の議事録については、後日、議事要旨として公表する予定である。
- ・本日の議事要旨についても、作成次第、メールにてご確認いただく予定である。
- ・第 4 回の検討委員会は 9 月 20 日（火）13 時からを予定している。また、第五回の検討委員会は、11 月 8 日（火）13 時からを予定している。

以上